

アジア大都市ネットワーク 21
東京都総合防災訓練にソウル・台北が参加しました

知事本局・総務局・東京消防庁

8月31日の東京都と中央区・江東区による合同総合防災訓練に、アジア大都市ネットワーク（ANMC）21会員都市である、ソウル特別市、台北市から救助隊が参加し、東京消防庁の消防救助機動部隊（通称ハイパーレスキュー）と連携して倒壊建物からの救出訓練を行いました。両都市との連携訓練は、平成18年度のソウル特別市、平成19年度の台北市に引き続き、今回で3回目になります。



8月31日東京都総合防災訓練における東京消防庁、台北（黄色のヘルメット）、ソウル（緑色のヘルメット）の連携訓練(晴海会場)

アジアは、大規模地震やサイクロン、台風、集中豪雨など世界の災害の90%が集中すると言われており、大規模災害の際には、国内だけではなく、近隣国から救助隊が出動し、被災者の救援を行っています。

例えば、平成11年9月21日、日本と同じ地震国である台湾において、マグニチュード7.7の大地震が起こった際には、東京消防庁、警視庁の救助隊を中心とした国際緊急援助隊が地震発生から約19時間後に台湾に到着し、マンション倒壊現場において救助活動を実施しました。「台湾地震の際は、日本がどの国よりも早く駆けつけてきてくれた。東京に地震が起こったときには、台北から救助に駆けつけたい」とは、昨年の総合防災訓練に参加した際に台北市消防局からいただいた言葉です。

東京で地震が起こったときには、1人でも多くの被災者を一刻も早く救済するために、国際救助活動の経験が豊富な近隣の海外都市からも救助隊を受け入

れることが想定されます。ソウル特別市、台北市は四川地震の際に国際救助隊を派遣した実績があり、東京との距離が空路でそれぞれ約2時間、約3時間であるため、東京に救助隊を派遣してもらうことが期待できます。

東京消防庁ハイパーレスキュー隊との合同訓練

両都市との連携訓練は、平成18年度のソウル特別市、平成19年度の台北市に引き続き、今回で3回目になります。総合防災訓練に先立ち、8月29日、東京消防庁第二消防方面本部の消防救助機動部隊（大田区京浜島）と共に、震災を想定した瓦礫の下からの救助訓練が行われました。



東京消防庁隊員の指示により、ソウル救助隊が倒壊した建物内へ進入



台北救助隊が瓦礫の中から被災者を救出



総合防災訓練の事前確認の様



互いに使用する救助資機材を確認

この救助訓練は、日・韓・中の三ヶ国語が飛び交う実践的なものとなり、以下の成果を上げることができました。

まず、実災害時に大きな障害となる言葉は、通訳を介したコミュニケーションのほか、今回は基本的な号令を英語で行いました。海外他都市からの救助隊が迅速かつスムーズな活動を行うためには、専門用語の通訳等、改善すべき課題があることが分かりました。

また、互いに使っている救助機材を知ることができたことも大きな収穫だったといえます。都市の災害状況や建物の構造、救助方法によって、各都市が使っている救助機材は異なっています。互いの救助機材や救助方法を理解することは、それぞれの国の救助技術の向上につながるばかりでなく、スムーズな救助応援を行ううえで大変重要となります。

さらに、各都市の救助隊の安全管理体制の違いも分かりました。東京消防庁の救助活動においては、常に安全管理員を配置し、安全管理を徹底しています。その体制が、圧倒的に低い殉職率の低さにも結びついており、ソウル、台北両市の関心を集めました。

両都市の「東京の救助技術や体制を知りたい」という要望や、訓練に向けた精力的で真摯な姿勢は、東京消防庁の救助隊員からも感嘆の声が上がり、また、体を動かして訓練を実施することの有効性を互いに確信することができました。

総合防災訓練における救出・救助活動



韓国語や中国語での指示が飛び交う

8月31日、いよいよ総合防災訓練本番です。訓練においては、東京湾北部を震源とする強い地震が発生し、ソウル特別市、台北市からの救助隊が、東京都を支援するため、空路により羽田空港に到着したことを想定して訓練が実施されました。



訓練会場にて石原都知事から激励を受ける両救助隊

オリンピック会場予定地でもある晴海訓練会場の建物倒壊現場に到着した両救助隊は、現場の指揮本部で命令を受け、倒壊したビルからの救出にあたりました。前日までの事前訓練の成果を発揮し、韓国語や中国語の指示が飛び交う中、スムーズに訓練が進み、東京消防庁ハイパーレスキュー隊と連携し、被

災者20名余り（人形）を無事救出しました。

訓練を終え、ソウル特別市、台北市の救助隊からは、「大変勉強になった。このような素晴らしい訓練がこれからも続くことを心から願っている」という声が上がりました。また、台北市からはもっと時間をかけて研修生を受入れてほしい、東京消防庁職員を講師として台北に派遣してほしいといった要望が上がり、このような活動への評価や意欲は非常に高かったといえます。

ANMC21「危機管理ネットワーク」では、今回の東京都総合防災訓練へのアジア都市からの参加のほか、アジア危機管理会議（次回は10月22～23日にクアラルンプール市で開催）や、東京消防庁による救助技術研修の実施等、様々な事業を通じ、アジア全体の危機管理能力の向上に取り組んでいます。

ANMC21「危機管理ネットワーク」のホームページもぜひご覧ください。

<http://www.anmc21.org/crisis/index.html>

